

水を起因物とするおぼれの死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生日	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	1	2 ～ 3	あさり養貝の監視所で密猟防止の監視をしていた者が、風が出てきたので河岸の詰所に退避しようとして行方不明となり、約1キロメートル離れた海岸で溺死体で発見された。	70201	10～ 29
1999	3	1 ～ 2	木切れを回収していた警戒船が操船不能となって潮に流され始め、それを止めるため、警戒船から泳いで台船に戻りロープを体に巻きつけて警戒船へ泳いでいた途中で行方不明となった。	30111	10～ 29
1999	4	10 ～ 11	生態研究調査で、事前に仕掛けていた網がある対岸での作業を終え、堰に沿って歩いていたときに川の中央付近で堰の下に流された。	120109	300 ～
1999	5	7 ～ 8	潜水技術の習得のため訓練で、マリーナ内の片道80mのコースを2往復する予定の2往復目が始まったときに見当たらなくなり、搜索したところ水深約3mの海底に沈んでいた。	170209	50～ 99
1999	6	11 ～ 12	地下にある飲食店に朝からの大雨で雨水等が次第にビルの地下に流れ込み、やがて地下全体が水没したため、逃げ遅れて溺死した。	140201	1～9
1999	6	11 ～ 12	河川が増水したので河川のそばにある資材置場の資材が流出しないよう建築資材を片付けていたときに、増水した河川に転落し、約1km下流で発見された。	30209	1～9
1999	8	9 ～ 10	製材木屑を焼却するため運搬していたが、工場に隣接して流れる農業用水(幅4m、深さ60cm)に木屑を誤って落としてしまい、これを拾い上げようと用水に入ったが流されて約1時間後に6kmほど下流の用水でうつ伏せになって流されているのを発見された。	10401	30～ 49

1999	8	10 ～ 11	共同所有のシーバース(洋上原油陸揚げ装置)のパイプラインのフランジボルト交換のため、水深約33mの地点でフーカー式潜水器を用いて潜水作業を行っていて死亡した。	30309	1～9
1999	8	7 ～ 8	現場の夏期休暇期間の保安要員として8月7日より8月16日までの間現場事務所の宿直室に寝泊まりする予定であったが、8月14日(土)午前10時に運河に浮いていたところを釣り人に発見された。	30105	100 ～ 299
1999	7	10 ～ 11	係船ロープ係として乗船していて、1500立方メートル積み全開式土運船の接岸中、突然海上に墜落した。	170209	1～9
1999	8	18 ～ 19	貯水池周囲の草刈り作業をしていた者の姿が見えなくなったので、警察署員や関係者が周囲を捜索したところ、深さ約1.8メートルの貯水池に沈んでいるのが発見された。	30199	10～ 29
1999	10	2 ～ 3	荷物を工場に運ぶためトラックで、会社駐車場を出た直後に運転操作を誤り、道路横の用水路(幅＝約1m・深さ＝約80cm・水深＝約20cm)に転落し、溺死しているのを発見された。	40301	10～ 29
1999	10	15 ～ 16	海中撮影の撮影補助としてカメラマンら2人とともに潜水していて、海中の激しい潮に巻込まれて行方不明となった。なお、カメラマンは水死体で発見された。	140309	1～9
1999	11	10 ～ 11	火力発電所の海岸から約120m沖に設置されている2次冷却水取水設備のゴミ除けスクリーンの据え付け作業のため、潜水作業中に内径50cmの取水口に吸い込まれて、管内に約20分間閉じ込められ、意識なく呼吸停止状態で救出されたが溺死した。	30309	10～ 29
1999	6	11 ～ 12	所長と担任の保育士2名が3歳児13名を引率して河川敷に行き、遊ばせていたところ、園児1人が誤って増水した川に転落したので所長と担任の2名が助けようと衣服のまま川に飛び込んだが所長は溺れた。	130201	10～ 29
2000	4	19 ～	河川の水位等の調査のため車で出発した2人が予定時刻になっても帰社しなかったため、関係機関等において捜索したところ2人が水死体で発見され	170209	10～ 29

		20	た。		
2000	4	19 ～ 20	河川の水位等の調査のため車で出発した2人が予定時刻になっても帰社しな かったので、関係機関等において捜索したところ2人が水死体で発見され た。	170209	10～ 29
2000	9	0 ～ 1	防波堤築造工事において、午前中の作業終了後に行方がわからなくなり、翌 日の正午頃、作業現場の岸壁の海底に沈んでいるのを発見された。	30111	100 ～ 299
2000	8	11 ～ 12	湖のボート乗り場において、手こぎボート内に溜まった雨水をひしゃくでか き出す作業中に、ボートから湖(水深12m)へ転落して、水死した。	140101	10～ 29
2000	3	5 ～ 6	自転車で乗って朝刊を配達中、自転車とともに道路脇の用水路に転落した。	80205	100 ～ 299
2000	3	16 ～ 17	防潮水門操作塔補修工事において、現場の足場解体終了し資材の片づけを 行ったのち現場監督が行方不明となっていたが、水深2.5mの海中で発見さ れた。	30111	10～ 29
2000	8	22 ～ 23	漁港に係留していた船の船舶用エンジンの修理作業を終えて下船するとき に、船べりと岸の間の海中に墜落して溺死した。	11702	1～9
2000	10	15 ～ 16	橋梁塗装工事で使用したつり足場の解体作業で、船が橋の下を安全に通れる よう目印として足場に取り付けてあった赤い布の取り外しているときに足場よ り転落した。	30105	1～9
2000	2	11 ～ 12	発電所の発電に使用した水を受ける放水庭(幅約20m、長さ約10m、水深約 3.5m)のコンクリート壁等を潜水で点検中、空気を送るホースが外れ溺死 した。	170209	10～ 29
2000	3	17 ～	障害者交流センターの屋内プールにおいて、第1コース底面にうつ伏せで溺 死しているのが発見された。	140309	10～ 29

		18			
2000	8	14 ～ 15	川に停泊中の砂利プッシャーボートの発電機用原動機の整備工事を行っていたときに行方がわからなくなり、水死体で発見された。	11501	50～ 99
2000	11	0 ～ 1	残土処理場において、大雨で溜まった水を調整池に排水するため、排水口(内径40cm)の上に付着していたタイヤチューブを2人がかりで取り除いたところ、1人が溜まっていた雨水ごと排水口に吸い込まれ、それを助けようとしたもう1人も相次いで吸い込まれ、調整池まで排水管の中を約60m流され、後から吸い込まれた者が調整池で溺死した。	170209	1～9
2000	11	13 ～ 14	同僚と2人で貯木場の木材の整理作業中に水中に転落した。	80109	30～ 49
2000	3	10 ～ 11	工場において、午前中の休憩後、作業者にチェーンソーの目立てを指示したまま行方不明となったので工場敷地内を探したところ、貯木場の水底で死亡しているのを発見した。	10402	50～ 99
2000	4	15 ～ 16	漁港改修工事において、ケーソン上部に型わく支保工を設置するための足場の海中の状況を確認するため潜水作業を行っていた者が潜水作業から約30分後に意識不明の状態で海上に浮いていた。	30106	30～ 49
2000	6	14 ～ 15	橋の増幅工事に先行して現場の水深を測量するため箱尺(長さ5m、重さ1.8kg)を持って橋脚に向かい川(水深約3m)を泳いでいて行方不明となり、約1時間30分後に約5m下流の川底で水死体となって発見された。	170209	1～9
2000	4	13 ～ 14	ケーソンの基礎ならしのため移動式クレーン(35t)を使用し深度約17mで捨石の吊り上げ作業を行っていた者がクレーンのロープをつたって突然浮上し直ぐに水中に沈んだので、近くで別の作業をしていた同僚潜水士が確認したところ、海底にて仰向けで倒れていた。	30111	1～9
2000	10	10 ～	ダム支水路脇の土手で草刈り機を使用して除草作業を行っていて、土手を移動中に水路に転落して流され約1時間後に約300m下流のダムで発見された。	170209	10～ 29

		11			
2000	4	15 ～ 16	ダイビングのインストラクターがダイビングのガイドを終えて陸上に上がってボンベ等の装備を解いたのち錨を引き上げるため素潜りで12m下の海底へ潜り溺死した。	140309	1～9
2001	1	7 ～ 8	鱒釣場で川面に1cm程度の氷がはっていたため作業員3名でとび口により氷を割る作業をしていたところ、1人が川岸(岩場)から川(水深約2m)に転落し、対岸の作業員が5分～10分後に駆け付け引き上げたが意識はなかった。	70209	1～9
2001	2	9 ～ 10	橋改良工事のため、橋桁下面に設置してあった床版改良工事用の吊り足場を解体しているときに、約3.6m下の運河に墜落し溺死した。	30209	1～9
2001	5	17 ～ 18	下水管の更新工事において、マンホール内で製管機を組み立てているときに、止水していた上流のポンプ場からの送水が開始されたため、150m下流の下水処理場まで流された。	30110	30～ 49
2001	5	14 ～ 15	ボート4艘でラフティング運航中、7名乗艇のボートが大きく傾き6名が川に投げ出された。(2名が約300m下流まで流されたが6名は直ぐに他のボートで救助された)	140309	10～ 29
2001	6	6 ～ 7	事業主夫妻と3人で湖内でしじみ漁を行っていて、採ったしじみを本船から「かよい船」に移す準備中に、事業主の妻が誤って湖中に転落し溺れたので、助けるため湖中に飛び込んで溺れた。(事業主の妻は救助)	70201	1～9
2001	8	18 ～ 19	作業員2人で川幅30mの横断測量を行うため、川の中に立てる目印を持って泳ぎながら移動していて溺れた。	170209	10～ 29
2001	8	14 ～ 15	工場で作業員が見当たらないことに気づき探したが見つからず、警察及び消防に通報して捜索したところ2日目に排水池で水死しているのを発見した。	10109	1～9
2001	10	14 ～	工場の第2調整池の排水口に溜まっていた枯れ草等のゴミの除去作業を行っていて、作業指示を行った班長の方に向かって歩いていたときに、水深	11109	100 ～

		15	80cmから序々に180cmへ深くなっているところで深みにはまり溺れた。		299
2001	12	10 ～ 11	岸壁の補修工事において、休憩時間に海底におとした肩にかけの錘(約6.5kg)を取りに行くため海底に潜ったが浮上してこないため同僚が探したところ、水深7mの海底に沈んでいた。	30111	1～9
2002	2	17 ～ 18	事業場の岸壁から約15m離れたの海面に浮かんでいるところを同僚が発見し、消防隊が救助しようとしたが海中に沈み、2日後に水死体で発見された。	50101	10～ 29
2002	2	5 ～ 6	キビナゴ漁のため、海上で錨を下ろして刺し網を投入していたところ、船尾スクリュー付近に網が流れたため錨を引き上げようとアンカーロープを持って移動したときに、右足首にアンカーロープを絡ませ海中に転落した。	70201	1～9
2002	3	13 ～ 14	海中ケーブル修繕工事に使用していた作業船の補修作業を行うため、ドライスーツなど潜水具一式(ウェイト26kg)着用し、岸壁(高さ約1.2m)から海面に飛び降りた直後、海中に沈み行方不明となった。	30107	10～ 29
2002	3	10 ～ 11	国道改築工事で、汚水のダム内への進入を防止する土嚢が置かれていたが、ダムの水位が上昇したのもう一段土嚢を積み上げる作業を行っていたときに、一段目の土嚢上で合図作業をしていた者が足場にしていた土嚢がダム内に滑ったため一緒にダム内に落ち水死した。	30106	50～ 99
2002	4	15 ～ 16	掘削作業の際に大量に水が流出したので、対処のために構内に水張り部を作ることになり、中間杭の周囲の足場板を少しずらしてその上に更に足場板を敷き番線で留める作業を行っていたが、立入禁止の足場下に降りて作業を行っていた者が行方不明になり水中で発見された。	30201	10～ 29
2002	4	22 ～ 23	埠頭において、貨物船から内航船へ積荷のカオリン(粉末;バラ荷)を貨物船の揚荷装置にクラムシェル状のバケットを取付けたものを使用して積替作業を行い、積替作業を終わって内航船の船倉にシートを掛けるため内航船に縄ばしごを使って移ったときに海に墜落した。	50202	10～ 29
2002	5	11 ～	川の護岸工事において、準備の一部として現況確認のための測量作業を小型の手漕ぎボートを使用し、1名が船上、2名が岸でその補助作業に従事してい	170209	1～9

		12	たところ、船が転覆して船上で作業していた者が川に転落したので、これを救助しようと川に飛び込み行方不明となった。		
2002	7	18 ～ 19	発電所取水口のゲートに引っ掛かった流木（長さ約10m）を撤去するため、流木にワイヤーを掛けて引張ったところ流木の影響で足場としていた場所が川水により崩れたため、バランスをくずして川に転倒し約60m流された。	30199	10～ 29
2002	7	8 ～ 9	水生生物による水質調査において、地元中学生が行う水生生物採取の前段階として同僚1名と水深約50～100cmの川で投網による生物の採取をしていたときに、水流に流され溺れた。	170209	10～ 29
2002	8	7 ～ 8	河川敷に仮置きしていた登坂台が大雨で増水した川に流されたので、残された4つの移動式クレーンで吊り上げて移動していて最後の登坂台を吊り上げるため上に登って玉掛けをしていたときに、登坂台もろとも川に転落し増水した川に流され行方不明になり、下流のダムで遺体で発見された。	30105	1～9
2002	8	10 ～ 11	ゴルフコース内の池の周囲の草刈り作業中に、芝刈り機（非乗用型）が池に落ちてしまったので池をのぞいているときに、池に転落し溺れた。	60101	10～ 29
2002	6	10 ～ 11	事業場内の溜池において、車両系建設機械を用いて溜池の浮き草の除去作業を行っていた同僚から作業内容の説明を受けているときに、顔が急に青くなってしゃがみこみ後ろ向きに池に転落し溺死した。	10901	50～ 99
2003	1	15 ～ 16	製品発送のために一人で出勤して敷地内の雪かき作業を行い、昼頃に運送業者と伝票受け渡しをした後に何らかの理由で会社敷地内の用水槽（水深170cm）へ転落、溺死した。	10905	1～9
2003	2	21 ～ 22	立坑内（深さ約10m）にある水道管（直径2.2m）のマンホールを開けて内部の調査をするため、マンホールのボルトを外して行ったときに、水道管内の残圧により水が噴き出て立坑内に水が溜まり溺死した。	30309	0
2003	2	14 ～ 15	ゴルフ場内を流れている河川で、お客を渡す仕事の中に第二渡船場で船が栈橋から離れたので止めようとして川に入り溺れた。	150101	100 ～ 299

2003	3	13 ～ 14	護岸ブロックを積み終えて川底を埋め戻すためにマーキング作業を行っていたときに、川底の水溜まり（長さ103cm×幅220cm、深さ35cm）に転落し水死した。	30199	10～ 29
2003	4	14 ～ 15	高炉改修工事に伴う高炉の間接系浄水場着水池の清掃作業で、作業員7名で着水池であるピット内にたまった汚泥をかき集め屋外へ排出する作業を行っていたが、作業中に1名がいないことに気づいて探したところ、鉄製の仕切網（スクリーン）の開口部（幅40cm、高さ70cm）を潜り抜けた隣の着水池（深さ1.7m）でうつ伏せで浮いた状態で発見された。	30209	10～ 29
2003	5	16 ～ 17	ダイビング講習が終了して帰港するためのアンカー引上げ作業で、水深約4mの岩礁に引っかけ設置していた後方の爪アンカーを外すため素潜りで3度目に潜ったまま水面には上がってこず、溺死した。	140309	1～9
2003	5	16 ～ 17	川の魚道設置工事において、現場の片付け、補修作業、川岸のコンクリート補修作業が終了したので左官道具を洗うため、一人で川へ降りていったまま数分経過しても戻ってこない様子を見に行ったところ、水深約1mのところらうつ伏せに沈んでいるのを発見した。	30107	1～9
2003	7	0 ～ 1	小学生6年生の修学旅行で、生徒を引率して海水浴中に生徒数十名が潮の影響で遊泳禁止区域に流されたため、生徒を近くの岩場に避難させようとした教諭が溺れた。	120109	10～ 29
2003	8	8 ～ 9	防波堤築造工事において、浮きクレーンを使用して波消ブロックを水深約18mの海底に据付けるため、マスク式潜水により海底で海上との連絡を通話装置で取りながら波消ブロックを据付位置に誘導しているときに、突然、通信が途切れたので送気ホースを手繰り寄せて引き上げたところ、潜水マスクが外れた状態で海面に浮上した。（溺死）	30111	10～ 29
2003	8	13 ～ 14	台風の影響で、道路の地下を横断する形で沢から河川に流している暗渠（きよ）が土石で閉塞したので、土石を除去するため2名が暗渠（きよ）の下流側となる河川の護岸側から内部に入って状況の確認をしていたときに、詰まっていた土石が水に押し出されたため、土石と水で2名が河川に流され行方不明となった。	30106	10～ 29



2003	8	13 ～ 14	台風の影響で、道路の地下を横断する形で沢から河川に流している暗渠（きよ）が土石で閉塞したので、土石を除去するため2名が暗渠（きよ）の下流側となる河川の護岸側から内部に入って状況の確認をしていたときに、詰まっていた土石が水に押し出されたため、土石と水で2名が河川に流され行方不明となった。	30106	10～ 29
2003	8	10 ～ 11	船台修理の準備のため、岸から約40m離れた水深約5m地点でエアーホースにより海底の泥はね清掃作業を行っていたところ、酸素ポンベの空気が切れたので、同僚の空気を分けてもらいながら上陸したがその直後に意識を失った。	11501	10～ 29
2003	10	15 ～ 16	事業場の簡易水道の管理を行っていた者が、貯水池の落葉を取り除いていて誤って貯水池（水深約2m）に落ちて水死しているのが発見された。	170209	10～ 29
2003	10	10 ～ 11	事業場から約350m離れた川沿いの駐車場へ社用車を駐車しに行ったまま行方がわからなくなったので、事業場、家族、警察で探したところ、10日後に駐車場横の川底に沈んだ社用車とその中から遺体が発見された。	170209	100 ～ 299
2004	10	13 ～ 14	ダム取水口（水深約4.9m）に堆積した沈木等の除去作業中、取水口のゲート下部の隙間に吸い込まれて身動きがとれなくなり、その後、取水口から下流に流され溺死した。	30199	1～9
2004	9	10 ～ 11	護岸付近の水深18mの個所でフーカ式潜水器を用いて取水管の接続作業（ボルト締め）を行っていたところ、何らかの原因により潜水土船のコンプレッサーが故障し、潜水器への送気が停止した。	30111	100 ～ 299
2004	2	8 ～ 9	河川の流雪溝の取水口付近で冰雪を捨てる作業中に川に流された。	11603	10～ 29
2004	5	0 ～ 1	ゴルフ場の池（水深90cm）の周囲で刈払機で草刈をしていたところ、池に転落した。	140301	100 ～ 299

2004	8	10 ～ 11	河川敷での除草後、フォークを使用した集草作業中に、川に転落した。	30199	1～9
2004	10	5 ～ 6	新聞配達途中、増水した川に流された。	80205	1～9
2004	10	8 ～ 9	被災当日の午後に上陸するおそれのある台風へ備え、港湾工場のH鋼杭が流されないよう補強する作業を行っていたところ、被災者2名が高波にさらわれ行方不明となった。	30111	1～9
2004	10	8 ～ 9	被災当日の午後に上陸するおそれのある台風へ備え、港湾工場のH鋼杭が流されないよう補強する作業を行っていたところ、被災者2名が高波にさらわれ行方不明となった。	30111	1～9
2004	1	6 ～ 7	代理店訪問のため出張中、宿泊先客室の浴室において、死亡した。	170209	50～ 99
2004	10	17 ～ 18	新設工事中のシールドトンネル内で排水施設の点検中、折からの台風による集中豪雨により、溢れた雨水が下水管に予想を超えて流入したため、管路同士の接合部を間仕切りしている鋼製の隔壁に大きな水頭圧がかかり破壊され、新設管路内で排水ポンプの動作確認をしていた被災者が流された。	30110	1～9
2004	1	16 ～ 17	川の護岸の杭打ち作業において、潜水（ボンベ吸気式）して旧護岸の深さを調査中に被災した。	30107	1～9
2004	7	15 ～ 16	住宅新築現場で風呂の設置工事を行っていた時、大雨のため川の堤防が決壊し濁流が押し寄せてきたため、トラックを運転して高台に移動させていたところ濁流に流された。	30202	1～9
2004	7	15 ～	川の堤防の決壊で濁流が押し寄せてきたため、電気遮断処置を行うために事業場に向かっていた時、濁流に流された。	11402	300 ～

		16			
2004	10	20 ～ 21	トラックで走行中、国道沿いで渋滞に巻き込まれたときに、台風の影響で近くの川が増水してトラックが冠水し、運転していた被災者がおぼれた。	40301	10～ 29
2004	5	17 ～ 18	養殖池のアマゴを網ですくい上げ、大小の選別作業中、養殖池に転落した。	70209	1～9
2004	8	9 ～ 10	台風対策のため沖に停泊していた建造船のアンカーチェーン2本が絡まり、これを解く作業を行っていた小型作業船が転覆し、被災者は海に転落した。	11501	50～ 99
2004	8	16 ～ 17	河口において、砂浜から投げた石が波によってどのように運ばれるかの研究を行っていたところ、高波にさらわれた。	120109	100 ～ 299
2004	12	9 ～ 10	事業主、客、被災者の3人で海浜より沖約100mまで船で行き、事業主と客が海に潜り1時間後船にあがったところ、被災者の姿がなかった為、捜索したところ、約30mの海底でうつ伏せの状態で見つかった。	170209	1～9
2004	9	14 ～ 15	河川調査の準備作業を行っていたところ、雨が降ってきたため、いったん左岸側に避難した。その後、右岸側に渡ろうと川を横切ったとき、急に濁流が押し寄せ流された。	170209	10～ 29
2004	4	9 ～ 10	海老養殖場において、えさの状況を確認するため、酸素ポンプを使用して潜水作業を行っていたところ、おぼれた。	70209	1～9
2004	10	14 ～ 15	観光用シーサイクルボート（足こぎ式ボート）の清掃を行っていたところ、水中に転落した。	60101	10～ 29
2004	9	16 ～	砂利採取船で、採取した砂利を採石プラントまで運んでいたところ、船から川へ落ちた。	20202	1～9

		17			
2004	10	20 ～ 21	岸壁に係留した船のエンジンの修理を行っていたところ、海中に転落した。	11702	1～9
2005	6	9 ～ 10	用水路の法面を草刈をするため、刈払機を肩から下げたまま法肩の柵（高さ90cm）を乗り越えようとしたところ、柵から転落して法面を滑落し、用水路に落ちた。	30199	1～9
2005	1	10 ～ 11	海の岩場において、岩に固定していた定置網のワイヤロープのシャックルを外す作業中、高波にさらわれ海に転落した。	70201	10～ 29
2005	2	9 ～ 10	漁作業中に、浮きフロートを投げ入れようとしたところ、浮きフロートの浮き網に被災者が絡まり、海に引っ張られるようにして転落した。	70201	1～9
2005	8	11 ～ 12	橋の上からバンジージャンプを飛び終えたジャンパーをゴムボートに収容する作業中、オールでボートをコントロールしていた際に、後ろ向きで川に転落した。	140309	1～9
2005	8	21 ～ 22	通行止となっていた県道の冠水箇所に突っ込み、トラックが動けなくなり立ち往生した。	40301	30～ 49
2005	7	10 ～ 11	岸より沖に出て、水深10m付近でプランクトンのサンプリングを行っていた際に、ゴーグルに水が入り、浮上しようとして溺れた。	120109	1000 ～ 9999
2005	6	8 ～ 9	ケーブル敷設工事において、マンホール内に50cmの深さに溜まった雨水を排水する作業中、マンホール内で倒れ、溺れた。	30301	50～ 99
2005	12	4 ～	曳き船の出航準備中、接舷していた浮き棧橋と曳き船の隙間から海中に転落した。	50209	1～9

		5			
2005	3	14 ～ 15	社員寮の風呂場清掃中に、持病を発症して浴槽内に転落し、溺れた。	11709	30～ 49
2005	9	16 ～ 17	造林地内の下刈り作業で、休憩のために近くを流れる沢に下りたところ倒れ、溺れた。	60209	1～9
2005	8	0 ～ 1	水深60mの海底に沈没した貨物船の船体破損状況及び燃料タンクの状況を調査中に溺れた。	170209	10～ 29
2005	2	15 ～ 16	海底電話ケーブルの点検作業のため水深26mの海中で潜水作業を行った後、海面へ浮上中に溺れた。	30301	1～9
2006	2	13 ～ 14	漁港工事において、護岸に消波ブロック（三柱ブロック、20トン）を100トンクローラークレーンを使用し据付ける作業中、ブロックを所定の位置に設置後、被災者がブロックに掛けてある玉掛けワイヤロープを外すため、設置済の消波ブロック上を渡っていたところ、誤って足を踏み外し、消波ブロックの隙間から約4m下の海面に墜落した。	30111	10～ 29
2006	2	19 ～ 20	被災者は下水管（内径300mm）のつまりを立坑のマンホールからロッドで突付き取り除く作業を行っていたところ、突然つまりが外れ、作業をしていたマンホールに大量の下水が流れ込み、死亡した。	150103	100～ 299
2006	3	15 ～ 16	被災者は、浄水場において、一人でろ過池の清掃作業を開始した。清掃業務の管理者が、夕方に上記浄水場に迎えに行ったところ、ろ過池に被災者がうつ伏せで浮いているのを発見した。	11603	10～ 29
2006	5	14 ～ 15	被災者は、熊手を使用して用水路のゴミを引き上げる作業を行っていたところ、用水路に転落して流され、約200メートル下流の分水工（水門）付近で発見された。	170209	10～ 29

2006	4	16 ～ 17	アサリ養貝場の監視業務に従事すべく小型船舶にて海岸沖800mにある監視塔に到着したが、天候が悪化してきたため監視業務を一時中断し、陸地に ある監視場に戻ろうと船に乗船しようとしたとき、海中に転落した。	170201	30～ 49
2006	4	9 ～ 10	橋脚を補強する災害復旧工事において、被災者は橋脚の保護鋼板に樹脂を充填するため、酸素ボンベを装着し潜水作業を行っていた。1箇所目の橋脚の樹脂充填が終わり、約14メートル離れた次の橋脚に泳いで移動していたところ姿が見えなくなり50メートル下流にて発見された。	30199	1～9
2006	7	14 ～ 15	左岸の排水機場逆水門付近の広場において刈払い機により草刈作業を行っていたところ、休憩時間になっても被災者がいないことに他の労働者が気が付き、捜索したところ川底から発見された。	30199	1～9
2006	7	12 ～ 13	降り続いた雨の影響により、事業場近くを流れる川が増水し、事業場内にあった重機等が浸水する恐れがあったため、4名の労働者で事業場内の高台に重機等を移動させていたとき、増水した川の水に被災者が流された。	20202	10～ 29
2006	9	12 ～ 13	台風及び大雨による災害対策のため、2名で工事現場の看板等の撤去、補強を行った後、会社事務所へ車で戻っていたが、道路が冠水していたので途中で車を降り、徒歩で会社事務所へ向かっていた時に増水した川に流された。被災者は約4時間後に流された地点より約1km下流にて発見された。もう一人は木にしがみついているところを救出された。	30106	1～9
2006	9	9 ～ 10	被災者が、水力発電所堰堤に出張し、同堰堤の漏水点検のため、下請事業場が行う作業の監視にあたっていたところ、下請事業場の作業員がかぶっていたヘルメットが川に流されたため、同ヘルメットを拾おうとして、堰堤下流側のコンクリート床版の端から水深2.5mの深みにはまった。	11601	30～ 49
2006	10	15 ～ 16	被災者が台車からトラックに貨物を積み替え中、貨物1個が川に落下したため、被災者が回収しようと、川に入り貨物に向かい泳いで行ったが、川の中央付近で溺れた。	40301	100 ～ 299
2006	11	13 ～	仮橋設置工事現場において、工事用作業通路の撤去作業中、バイブロハンマーで引き抜いたH鋼杭が河川内に倒れたため、昼食後に引き上げ作業を行う予定であったが、一人で河川に入って、玉掛作業の準備を行おうとした被	30199	10～ 29

		14	災者がおぼれた。		
2006	12	8 ~ 9	被災者は、早朝タイヤショベルを運転し、駐車場となる岸壁の除雪作業を行っていた。被災者が事務所に戻ってこなかったため、同僚等が被災者を捜していたところ、港内に浮いている被災者を発見した。被災者は、タイヤショベルで除雪作業中、岸壁の防波堤（高さ90cm、幅70cm）に上がり、海中に転落した。	40102	1~9
2007	9	3 ~ 4	被災者は、朝刊配達のため、会社所有の50ccバイクにより町道を配達先へ走行中、前日来的大雨により川が氾濫し、町道上を濁流となって水が流れていた場所にバイクごと乗り入れ、バイクが転倒し、そのまま濁流に流され行方不明となった。	80205	10~ 29
2007	12	9 ~ 10	橋の欄干に衝突して止まっていた事故車両（トラック）を移動する作業において、被災者は事故車の状況を確認しようと用水路脇のフェンス（高さ1.1m）を乗り越えて車両に近づいた際、道路から約2m下の用水路（水深約2.3m、幅14.3m）に転落した。	11701	10~ 29
2007	12	10 ~ 11	排水路の排水樋管工事において、完成引き渡し前の排水ますについて、はつり、磨き等の掃除及びモルタル補修を行うにあたって、現場代理人が必要な機材を準備するために現場を離れ、被災者が一人になった間に、川に転落、浮いているところを発見された。モルタル用コテを洗うなどの理由で川へ近づき、転落したと思われる。	30107	1~9
2007	3	4 ~ 5	工場内において、定期巡回に出た被災者が相当時間経過しても戻ってこなかったことから捜索したところ、巡回ポイントである廃水処理場の油分離槽の縁に被災者の無線機とタバコを発見し、当該油分離槽内を捜索したところ槽内に沈んでいた被災者を見つけた。	170201	100 ~ 299
2007	10	16 ~ 17	被災者は中央側溝周辺の芝刈り及び後片付け作業を単独で行っていた。中央側溝内で被災者が頭を西側にしてうつぶせ状態で発見された。側溝底周辺から側溝底まで（高さ約2m）墜落した。	150101	100 ~ 299
		11	被災者は、ゴルフ場コース内修景池のほとりにおいて、後日設置予定の噴水		300

2007	4	～ 12	設備の設置準備作業を一人で行っていたところ、池に落ちた。	140301	～ 499
2007	7	～ 15	14 川底において除草作業中、強い雨が降ったため、いったん岸に上ったが、少 し小降りになったため、小物道具を取りに川底に入り、岸に上ろうとしたと 15 き、水位が突然急上昇して、下流まで押し流された。	30309	1～9
2007	12	6 ～ 7	被災者は新聞配達を徒歩で行っていたが、事業場へ帰ってこないため配達地 区を捜索したところ、川に被災者が倒れているのを発見した。	80205	10～ 29
2007	6	～ 16	15 会社が所有する別荘の雑草の手入れ等を行ったのち、雑草の手入れ道具等の 後片づけを行っていたところ、足を滑らせて別荘の横を流れるダムの放水に 16 より水嵩が増して濁流となっていた川に転落した。	10905	1～9
2007	7	4 ～ 5	大雨による冠水のため、道路通行止めのバリケードを設置していたところ、 増水した川に流され、約7 km下流で発見された。	30199	50～ 99
2007	9	～ 16	ダムから浄水場に繋がる送水用の塩化ビニル製のパイプが外れて漏水してい たことから、これを修復するために、止水栓を閉じて水流を止めようと試み たが、止水栓は土砂に埋没していたために、被災者が素潜りにより、ダム内 の堤から約10 m、水深1 m付近にある送水パイプに繋がるホースの取水口 を塞ごうとしたところ、被災者が取水口に吸いこまれた。	11603	10～ 29
2008	11	13 ～ 14	海岸沿いの護岸復旧工事現場で、災害当日の朝、高波により被災者を含む土 工班の仕事は中止となったため、被災者らは、作業内容を変更して型枠材の 運搬作業を行っていた。昼休み後、被災者は、作業箇所へ戻る同僚とは行動 を別にして波打ち際の護岸へ移動後に、缶で海水を汲むような動作をしてい たところ、高波に足元をすくわれて海へ流され行方不明者となり、後日、海 岸にうちあげられていた被災者が発見された。	30199	10～ 29
2008	1	～ 11	10 スクーバ式潜水により水深約20mの海中でナマコ採取作業を行っていた被災 者が、浮上予定時間を経過しても浮上してこなかったため捜索したところ、 11 翌日、潜水開始場所付近の海底で発見され、引き上げたが死亡していた。	70201	30～ 49



2008	7	8 ～ 9	定置網の網起こし作業が終了して、別の漁場の網起こし作業の応援に向かっている途中に、船から転落して死亡した。船内には7～8名乗っていたが転落状況の目撃者はいない。	70201	30～ 49
2008	6	11 ～ 12	事業場の砂利プラントにおいて、川砂をトラクター・ショベルを使用してダンプトラックに積み込む作業中に方向転換のためバックして進んだところ、後方にある深さ約1.5mから2mの沈殿池にトラクター・ショベルごと転落横転した。	10909	50～ 99
2008	7	11 ～ 12	被災者は他の教諭4人とともに、学校行事の「夏期学校」で、中学2年生2クラスの生徒約80人を引率して、海水浴場に来ていた。生徒の遊泳前、海の様子を調べるために沖に向かって泳いでいたが、ブイ付近（沖合約20m）でうつ伏せ状態で浮かんでいるところを、他の教諭が発見して浜辺に引き上げ、病院に搬送したが死亡した。	120109	100 ～ 299
2008	1	16 ～ 17	フーカー式潜水器を使用して深さ約15mの湾内の海中で、ジャケット杭を結合する部分にグラウト（接合剤）を注入する作業を行っていた。作業中にマスク内に海水が入ったため海面に浮上しようとしたが、送気ホースがジャケットに絡まり海上に浮上することができず死亡した。	30111	10～ 29
2008	7	10 ～ 11	河川の中にドラグ・ショベル1台を設置して水深約30cmの河床の掘削を行っていた。作業員2名がドラグ・ショベル周辺で掘削の補助等を行っていたところ、降雨により増水した河水が上流から流れ込み1名が下流に流され行方不明となった。なお、増水により水深は約3mとなっていた。	30107	50～ 99
2008	8	12 ～ 13	既設の下水管の更正のために塩化ビニール製内管を設置する工事中、一次下請の作業員1名及び二次下請の作業員5名、計6名が下水管内に入り内管の接合部にFRP樹脂製の内張りを設置する作業を行っていた。その際、突然の大雨で下水管内が急激に増水して6名の作業員のうち5名が流された。	30110	30～ 49
2008	8	12 ～ 13	既設の下水管の更正のために塩化ビニール製内管を設置する工事中、一次下請の作業員1名及び二次下請の作業員5名、計6名が下水管内に入り内管の接合部にFRP樹脂製の内張りを設置する作業を行っていた。その際、突然の大	30110	1～9

			雨で下水管内が急激に増水して6名の作業者のうち5名が流された。		
2008	8	12 ～ 13	既設の下水管の更正のために塩化ビニール製内管を設置する工事中、一次下請の作業員1名及び二次下請の作業員5名、計6名が下水管内に入り内管の接合部にFRP樹脂製の内張りを設置する作業を行っていた。その際、突然の大雨で下水管内が急激に増水して6名の作業者のうち5名が流された。	30110	1～9
2008	8	12 ～ 13	既設の下水管の更正のために塩化ビニール製内管を設置する工事中、一次下請の作業員1名及び二次下請の作業員5名、計6名が下水管内に入り内管の接合部にFRP樹脂製の内張りを設置する作業を行っていた。その際、突然の大雨で下水管内が急激に増水して6名の作業者のうち5名が流された。	30110	1～9
2008	8	12 ～ 13	既設の下水管の更正のために塩化ビニール製内管を設置する工事中、一次下請の作業員1名及び二次下請の作業員5名、計6名が下水管内に入り内管の接合部にFRP樹脂製の内張りを設置する作業を行っていた。その際、突然の大雨で下水管内が急激に増水して6名の作業者のうち5名が流された。	30110	1～9
2008	2	5 ～ 6	被災者は漁船（排水量15t、13人乗船）でホタルイカの定置漁を行い漁港に水揚げを済ました。その後、同船は所属する漁港への回航途上、後部に乗船していた2名が、右舷後方から襲った高波にさらわれて海に投げ出されて死亡した。	70201	10～ 29
2008	5	15 ～ 16	防波堤で障害児（男児7歳）の移動支援中に男児が波に足をさらわれて海に転落したため、被災者が男児を助けようと海に飛び込んだ。しばらくは男児を抱え泳いでいたが、行方不明となり1時間10分後に近くで発見された。	130201	10～ 29
2008	10	10 ～ 11	砂や砂利を製造する過程で発生した泥水のたまり場において、被災者が深さ1.15mの泥水に墜落して身体が埋まった状態で発見された。	10909	1～9
2008	7	14 ～ 15	被災者（テニスコーチ）が遊泳地でテニスツアー参加者の川遊びの付添いを行っていた際、5歳と7歳の子供2名がおぼれたため救助しようとしたところ、水深3.2mの深みでおぼれた。	140309	10～ 29
		14	被災者は、沖合の深さ1.5m付近で定置網の取替え作業を行っていたところ		10～

2008	10	～ 15	溺死した。	70201	29
2008	3	14 ～ 15	造船所内の棧橋において、当該棧橋の基礎杭に防食用アルミ亜鉛合金板を取り付けるため、潜水作業を約3m海中で行っていた。その際、被災者がおぼれて海面に浮かんでいるところを同じ作業を行っていた作業者に発見された。	30199	10～ 29
2008	7	8 ～ 9	湾内のマグロ養殖槽(60m×40m)の内部において、魚の死骸除去作業を行っていた被災者が当該作業を終えて船に上がろうとしたとき、足ひれの片方を槽外の海中に落とした。被災者は落とした足ひれを探すために足ひれを着用しないで（酸素ボンベは携行）で海に潜り行方不明となって、その後、海底で発見された。	70209	10～ 29
2008	12	8 ～ 9	被災者は、海面に浮かべた作業台で養殖カゴを運びだす作業を一人で行っていた。帰りが遅いので同僚が様子を見に行ったところ、うつぶせで海面に浮いている被災者を発見して病院に搬送したが死亡した。なお、被災者が浮いていた付近の水深は、約50cm程度であった。	70209	10～ 29
2008	1	9 ～ 10	海上に設置された魚類（ブリ）の養殖場において、作業員4名で生簀の中のブリの約半数を別の空生簀に移しかえる作業をしていた。3名が海上から、1名が潜水作業により生簀の中に捕獲用の網を設置していたところ、海上で作業を行っていた作業員が、潜水作業員の呼吸の泡が出ていないことに気づき、海面から潜水作業員の様子を確認したところ、生簀の底あたり（深さ約6m）に仰向けになり沈んでいるのが確認された。	70209	1～9
2009	10	4 ～ 5	漁船（19t）がいか釣り漁のため漁港を出港する際、被災者が船上で係留ロープを外す作業を行っていたところ、海に転落し死亡した。	70201	1～9
2009	3	11 ～ 12	ダム湖の法面対策工事において、水位を下げるためダムの水門を開けようとしたが、水門が動かなかった。原因確認のため潜水調査を行っていたところ、水門が約20cm開いており、足が吸い込まれ身動きができなくなり溺死した。	30107	10～ 29

2009	10	14 ～ 15	台風の風雨の影響により、事業場の銀鮭養殖場周辺の水路等の水位の上昇等 ～ 15 事業場内を流れる水路の下流地点において遺体で発見された。	70209	1～9
2009	6	14 ～ 15	換気ファンの不具合調査のため、B2F中水道設備室へ被災者一人で向かっ ～ 15 中水道設備室のスラブ下の貯水槽に沈んでいる被災者を発見した。	150101	1～9
2009	7	12 ～ 13	当該現場において、監理技術者として業務を行っていた被災者が、正午に ～ 13 たところ、現場敷地外の橋下の水中で発見された。	30203	1～9
2009	2	9 ～ 10	防波護岸築造工事現場において、海中に沈めたケーソン（護岸のコンクリー 9 ～ 10 防波板（鉄製、天板の支保工設置のため潮の流入等の防止）の設置作業中、 10 防波板が波により開き、開いた防波板とスリットの間に左足をはさまれ、さ らに、送気管が切断し、おぼれた。	30111	1～9
2009	8	7 ～ 8	代表者と2人が池に到着し、自生するジュンサイ採取の準備作業中、先に池 ～ 8 ころを発見された。	80109	1～9
2009	7	10 ～ 11	被災者が祭の船に使用する台船上を移動中、川に転落した。後日、災害発生 ～ 11 現場の下流で遺体が発見された。	50202	30～ 49
2009	8	14 ～ 15	川の地下水路函渠入口付近にて函渠の構造耐力調査中、局部的豪雨による鉄 ～ 15 先で発見され4人が死亡した。	170209	10～ 29
2009	3	11 ～ 12	岸壁付近において重機等が走行するための敷鉄板間の繋ぎ目をアーク溶接機 ～ 12 して後進させたところ、岸壁から軽トラックごと海に墜落して死亡した。	170209	1～9
		15	水道原水であるため池の水質確認のため現地見回りを昼過ぎから一人で行っ		10～

2009	1	16	～	ていたが、帰庁予定時刻を過ぎても戻ってこないため、他の職員が確認に行ったところ、池に沈んでいる被災者を発見した。	11603	29	
2009	1	8	～	9	川の縦断測量作業中の作業者が、川（幅約20m）を横断する途中で下流に流されて死亡した。	170209	10～ 29
2009	8	12	～	13	街路改良工事（一次盛土工）現場において、被災者は地盤改良機械である重機（泥土車）の誘導を無線機を使用して行っていた。重機のオペレーターが無線機で被災者に連絡したが応答がなかったため搜索したところ、海岸の潮だまり（水深1.7m）に被災者が沈んでいるのを発見した。被災者は病院へ搬送されたが死亡が確認された。	30109	10～ 29
2009	8	14	～	15	川のボックスカルバート橋梁の耐力度調査に従事していた作業員6人中5人が作業中、水路内の水位が急激に上昇し、その時発生した濁流に流され4人が被災した。	170209	10～ 29
2009	8	14	～	15	川のボックスカルバート橋梁の耐力度調査に従事していた作業員6人中5人が作業中、水路内の水位が急激に上昇し、その時発生した濁流に流され4人が被災した。	170209	10～ 29
2009	8	14	～	15	川のボックスカルバート橋梁の耐力度調査に従事していた作業員6人中5人が作業中、水路内の水位が急激に上昇し、その時発生した濁流に流され4人が被災した。	170209	10～ 29
2009	11	13	～	14	施設の移設に伴う保安柵設置工事現場において、鉄筋コンクリート支柱の建て込み中の掘削穴（幅37×43cm、深さ107cmで掘削底から75cmの高さまで水がたまっていた）に身体を突っ込んだ状態の被災者を発見し、救急搬送されたが同日死亡した。	30309	1～9
2010	1	11	～	12	マリーナより出航し、沖合のダイビングポイントにおいて、当日2本目のダイビング案内中、船の錨が外れたので船上にいた被災者が錨を海底に固定するためにスキューバ式潜水器を用いて潜水したところ、溺死した。被災者は潜水士資格を有していなかった。	150101	100 ～ 299

2010	1	9 ～ 10	県の嘱託職員が川岸に設置された量水標の水位表示を確認するため、デッキ ブラシで表示部を清掃しようとしていた際に、川岸の斜面で積雪に足を滑ら せて水中に転落し溺死したものの。	160101	1～9
2010	1	10 ～ 11	海中放出管漏洩位置調査及び応急措置工事のため、水深約27mで放出管の 土砂をエアリフトで掘る作業を実施中、作業時間が経過したので、連絡員 から浮上の連絡をした1～2分後に、潜水者（被災者）からの応答がなく なったものである。被災者は、海底近くでフーカー式潜水器の全面マスクか らレギュレーターが外れ身動きしない状態で発見され、救出されたが、同日 死亡が確認された。	30199	30～ 49
2010	3	13 ～ 14	沖合約3kmの位置において、水深約1mの位置まで素潜りにより潜水し、 定置網のうち2段箱と呼ばれる箇所に設けられた網を船上に引き上げるため 直径12mmのロープを結びつける作業に従事していたところ、被災者が浮 上せず、海面上にうつぶせの状態でも溺死して浮きあがってきたもの。海水温 が低く、心臓の疾患を発症したとみられる。	70201	10～ 29
2010	5	17 ～ 18	漁業協同組合所属のごち網漁船（6.6t、乗組員2名）が予定時刻を過ぎ ても帰港しなかったため、僚船が沖合を捜索していたところ、港口灯台の沖 約4kmの海上で、無人で浮いている漁船を発見した。2日後、漁船を発見 した付近の海底で、水死した被災者が発見された。災害発生時の天候は北の 風10m/s、波の高さ約1.5mであったため、漁船が動揺し被災者と代 表者が海に転落したものである。	70201	1～9
2010	6	16 ～ 17	2社の労働者3名で総t数998tの鉱滓バラ積み船の係留作業中、被災者 が防潮堤（海面からの高さ3.8m、幅25.3cm）の上で、係留ロープ をたぐり寄せる作業中、海面に墜落し、溺死したものの。救命具は未着用であ り、墜落防止措置が講じられていなかった。	11001	100 ～ 299
2010	6	8 ～	小型船舶（0.9t）に乗り養殖いかだを移動しながら当該いかだの見回り 及び清掃作業を1名で行っていた被災者が、養殖いかだより80m程離れた 岸壁に流された当該小型船舶側面の海底に沈んでいたもの。目撃者はいない が、養殖いかだに係留していた小型船舶が見回り中に流されたため、泳いで	70209	50～ 99

		9	取りにいったものの船上に上がれず、救命胴衣を着用していなかったので力尽きて溺れたとみられる。		
2010	8	0 ～ 1	6日前に発生したヘリコプター墜落現場を取材するため、事故前日、被災者2名がガイドと共に国道沿いから徒歩で入山したが、墜落現場が確認できず、いったん入山地点まで戻った。その後、被災者2名のみで再び入山するものの、夜から連絡が取れなくなった。山岳救助隊が捜索し、死亡（溺死）している2人を発見した。	110101	1001 ～ 9999
2010	8	0 ～ 1	6日前に発生したヘリコプター墜落現場を取材するため、事故前日、被災者2名がガイドと共に国道沿いから徒歩で入山したが、墜落現場が確認できず、いったん入山地点まで戻った。その後、被災者2名のみで再び入山するものの、夜から連絡が取れなくなった。山岳救助隊が捜索し、死亡（溺死）している2人を発見した。	110101	1001 ～ 9999
2010	8	18 ～ 19	山間部の地質調査中に死亡した。被災者と同僚の2名はレンタカーに乗り合わせ滞在先のホテルを出発して、現地付近に到着し、別々に調査場所へ向け入山した。調査を終えた同僚が、出発地点にて待ち合わせ時間に被災者が来ないため、1人で捜索を開始。その後、警察も加わり捜索したところ、翌日の早朝、調査範囲内にある水深1 m程の沼地にて溺死している被災者が発見された。	170209	300 ～
2010	9	15 ～ 16	シュノーケルインストラクターである被災者は、シュノーケルツアーを終了して事業場に戻り、事業場内にあるマリンハウスの浴槽で無呼吸で素潜り時間を長くする訓練を1人で行っていたところ、意識不明となった。病院へ搬送したが、約2週間後に死亡した。長く呼吸を止めた状態からくる意識喪失（ブラックアウト）により溺死したとみられる。	140101	50～ 99
2010	9	10 ～ 11	車エビ養殖場において、被災者は潜水器を着用し、養殖池に潜りゴミ取り作業を朝から1人で行っていた。約90分後、被災者の姿が見当たらないことに気付いた同僚が養殖池を見回ったところ、被災者が使用していた船外機に掛けられたはしごに引っ掛かり、養殖池内で沈んでいる被災者を発見し、病	70209	1～9

			院へ搬送したが死亡が確認されたもの。被災者は潜水士免許を所持していなかった。		
2010	10	1 ～ 2	ゴルフ場において、ティーグラウンド前の調整池で草刈り作業中、調整池の水際付近に生えている草を鎌で刈っていたところ、調整池に転落しおぼれた。 救命具を使用していなかった。	140301	30～ 49
2011	9	10 ～ 11	上記の災害発生場所で自社の船2隻でサケの定置網の点検作業を午前9時54分頃から開始、1チーム2名で2チームの4名が潜水し、午前10時15分頃に1名が浮上したが、被災者が浮上してこないことから潜って確認したところ、水深約9mの箇所定置網に引っかかっている被災者を発見したが、意識がなく病院に搬送したが死亡した。被災者を発見した時のボンベ内の空気量は空であった。	70201	10～ 29
2011	3	13 ～ 14	漁港の沖合約3キロメートル付近でスクーバ式潜水器具を用いて潜水し、ナマコを採取する作業に従事していた被災者が、浮上予定時刻を経過しても浮上してこなかったため捜索したところ、翌日水深約30メートルの海底付近で発見されたが、死亡していたもの。	70209	10～ 29
2011	9	23 ～ 0	台風15号の大雨に伴う市民からの水路が溢水しているとの通報を受け、現地調査に向かったまま行方不明になり、水路下流で心肺停止状態で発見された。	11603	30～ 49
2011	9	23 ～ 0	台風15号の大雨に伴う市民からの水路が溢水しているとの通報を受け、現地調査に向かったまま行方不明になり、水路下流で心肺停止状態で発見された。	11603	30～ 49
2011	3	15 ～ 16	津波により行方不明。	80204	1～9
2011	8	16 ～ 17	事業場に隣接する運河の護岸において、海水サンプル採取作業を行っていた被災者が行方不明となり、落水したと思われる地点から約7メートルの海底から発見されたもの。	80401	10～ 29



2011	8	16 ~ 17	岸壁防波堤の測量作業を行っているとき、測量場所を移動するため、労働者が防潮堤（海面からの高さ約3 m、地上からの高さ約1.7 m）の上面（幅約50 cm）を歩行していたところ、海中に転落し、溺死したもの。災害発生の際、転落防止措置を何ら講じておらず、被災者は救命胴衣を着用していなかった。転落の瞬間を目撃した者はいないが、被災者は泳ぐことができなかったと考えられる。	170209	30~ 49
2011	1	9 ~ 10	橋脚の基礎工事において、水中にて、高圧洗浄機を用いて鋼管についた泥を落とす作業をしていた潜水士（約7時間後救出、無傷）が、泥に埋もれ身動きがとれなくなったため、地上にいた他の潜水士が、同人の状況確認のため水中に潜ったところ、数分後、突然、後から潜った潜水士の交信が途絶え、すぐに引き揚げたが、すでに意識不明の状態であったもの。交信が途絶えた原因については不明。（平成23年1月18日死亡）	30199	1~9
2011	2	14 ~ 15	被災者は、水道管取り替え工事の誘導を行っていたが、午後3時頃から姿が見えなくなり周囲を探していたところ、集水枡で溺死している被災者が発見された。	170201	30~ 49
2011	3	13 ~ 14	堤防工事が完成し、完成検査に参加するため、工事事業者に製品を納入している被災者所属会社から出張していた被災者が、何らかの理由で海に転落し、水面に浮いているのを発見された。	170209	10~ 29
2011	9	21 ~ 22	午後10時頃、労働者2名が、台風の大雨を警戒し、会社工場にとめていた生コン車12台を、会社所有の資材置き場（南へ約500 m）へ移動させようとしたところ、川が氾濫し、2名とも流され、翌月、1名は会社工場から300 m下流、もう1名は約5 km下流で、遺体で発見されたもの。なお、工場も壊滅的な被害を受けており、生コン車も下流へ流されている。	10901	1~9
2011	9	21 ~ 22	午後10時頃、労働者2名が、台風の大雨を警戒し、会社工場にとめていた生コン車12台を、会社所有の資材置き場（南へ約500 m）へ移動させようとしたところ、川が氾濫し、2名とも流され、翌月、1名は会社工場から300 m下流、もう1名は約5 km下流で、遺体で発見されたもの。なお、工場も壊滅的な被害を受けており、生コン車も下流へ流されている。	10901	1~9

2011	9	16	大学構内において、施設の巡回業務中に行方不明となっていた被災者が、構内に敷設されている角型集水柵（開口部50cm×50cm×深さ140cm）内に頭から落ちた状態で、溺死しているところを発見されたもの。	120109	100
		17			299
2011	12	0	被災者はコンクリートミキサー船の船長であり、他の作業員2名と共に現場で作業をしながら同船内に宿泊していた。平成23年12月16日の作業終了後、船内で夕食を食べた後、居室内にいたと思われるが、翌朝になり姿が見えないため捜索したところ、午前8時50分頃、当該コンクリートミキサー船の右舷船尾付近の海底に沈んでいるところを発見され、死亡が確認された。	30111	30～ 49
2011	2	15	光ケーブルを海底から陸揚するための管路設置工事において、管の出口を確認するために沖合約170mにある作業船へウエットスーツ等を着用してして泳いで移動していたところ、途中で溺れたもの。	30199	100
		16			299
2012	8	6	被災者は前夜に発生した地震による貯水池の防水シートの亀裂状況等の点検のため、貯水池の設備再点検を行っていたところ、誤って貯水池に転落し、溺死した。	80401	50～ 99
		7			
2012	3	11	被災者はエンジンがついていないゴムボートに単独で乗って、流量観測業務を行っていたところ、誤って川に墜落し、溺死した。	170209	1～9
		12			
2012	10	9	被災者は堤防先端にある灯台の塗り替え工事にかかる足場の見積りのため現場確認を行い、戻るために堤防上を移動中、高波に浚われて海中に転落、数日後に遺体で発見された。	170209	1～9
		10			
2012	1	21	水産作業場内の排水側溝末流に設置された「グリストラップ」と呼ばれる生ごみ等の回収溝（長さ100cm、幅60cm、深さ90cm）に溜まった水（水深約40cm）に上半身が入り、意識がない状態の被災者が発見され、救急搬送先の病院で死亡した。	80201	100
		22			299
2012	5	14	LNGプラントにおける取水設備の点検、清掃、クラゲ防止網取付作業の際、被災者は海面から深さ5mの位置にある取水配管内に潜水し最終確認作業を行っていた。作業開始から約45分後、送気ホースの動きが止まった事に気づ	30309	100
					～

		15	いた労働者が手繰り寄せたところすでに被災者は意識を失っており、救急搬送された病院で死亡した。		299
2012	8	16 ～ 17	船舶の補修等を行うための潜水要員を育成するため、水深15mの海で新人と教官である被災者が潜水訓練を行っていた際、水没、行方不明になり、捜索数日後に海底で遺体が発見された。なお、発見時は空気ボンベを外した状態であった。	11501	300 ～
2012	12	14 ～ 15	埋立地の地先における、防波堤を新設する工事現場での事故。水深約17mの位置にて、防波堤本体の鋼製ジョイント内部に、労働者2名でコンクリート打設作業を実施していた際、次の手順であるコンクリート圧送ホースの接続準備のため被災者が単独で作業中に溺れ、死亡した。	30111	10～ 29
2012	8	13 ～ 14	学習塾の野外活動を引率していた被災者が、川遊びをしていた小学生2名が溺れたのに気がつき、救助しようとして、深さ約2mの川の深みにはまり、溺死した。	120109	30～ 49
2012	3	6 ～ 7	被災者は漁業協同組合にて鮮魚の積み込みを行うため、同組合に到着後、同組合敷地内の岸壁に自ら運転していた活魚車を駐車していた。同組合の担当者が、被災者の姿が見えないことに気づき捜索したところ、活魚車を駐車している岸壁の海底に沈んでいるのが発見された。	40301	1～9
2012	10	14 ～ 15	河川敷にて集草作業を行っていた被災者は、除草作業現場近くの河川内で溺れた状態で発見された。	30199	10～ 29
2012	3	9 ～ 10	海上に設置された「給餌ブイ」取外し工事において、「給餌ブイ」の固定のために海底に設置しているアンカーブロック（75t）を浮きクレーンで船上に吊り上げるため、潜水士3名で深さ約57mの地点で、シャックルの玉掛け作業を行っていたところ、潜水開始からしばらく経過した後、2人が意識不明の状態で見えてきた。残る1人はアンカーブロックそばの海底で意識不明の状態で見えなかった。	30111	1～9
			海上に設置された「給餌ブイ」取外し工事において、「給餌ブイ」の固定の		

2012	3	9 ～ 10	ために海底に設置しているアンカーブロック（75t）を浮きクレーンで船上に吊り上げるため、潜水士3名で深さ約57mの地点で、シャックルの玉掛け作業を行っていたところ、潜水開始からしばらく経過した後、2人が意識不明の状態で見上してきた。残る1人はアンカーブロックそばの海底で意識不明の状態で見上された。	30111	1～9
2012	3	9 ～ 10	海上に設置された「給餌ブイ」取外し工事において、「給餌ブイ」の固定のために海底に設置しているアンカーブロック（75t）を浮きクレーンで船上に吊り上げるため、潜水士3名で深さ約57mの地点で、シャックルの玉掛け作業を行っていたところ、潜水開始からしばらく経過した後、2人が意識不明の状態で見上してきた。残る1人はアンカーブロックそばの海底で意識不明の状態で見上された。	30111	1～9
2013	11	14 ～ 15	被災者は、同僚2名とともに川の地形の横断測量を行っていた。被災者は、ドライスーツとライフジャケットを着用し両岸に渡したロープに安全帯を掛け、ロープにつかまりながら右岸から左岸に歩いて渡っていた。被災者は、腰に緊急時用ロープをつけ、そのロープを左岸にいる同僚が持っていたが、川を10m程渡ったところで被災者の指示で、同僚はロープから手を離れた。その後、川の中程で被災者は、足を滑らせて転落し溺れた。	170209	1～9
2013	9	5 ～ 6	漁船（1.7トン）に被災者等5名が乗り込み、湖口より数百m沖合で定置網漁に使用していたロープ等を引き上げる作業中、船首から高波を受け、当該漁船が転覆し5名全員が海に投げ出された。4名はすぐに他の船に救助されたが、被災者は、数時間後に発見され病院へ搬送されたが死亡が確認された。尚、被災者等5名は、全員救命胴衣を着用していた。	70201	10～ 29
2013	8	9 ～ 10	被災者は、同僚とトラックの泥はねで汚れた事業場前の道路上を、スコップを使って掃除していた。その後、同僚は被災者と別れて休憩場所に行き、休憩時間終了後も被災者が現れないため捜索したところ、作業場横の法面（法長約7メートル）の下に流れている川の川岸で、顔が水につかって倒れている被災者を発見した。	60101	1～9
			被災者は、砂利採取船で砂利採取作業を行っていたが、悪天候のため作業は		

2013	2	10 ～ 11	中止となった。その後、被災者は採取船の点検整備等を実施していたが、業務終了時間になっても岸に戻らず、岸から採取船までの渡船が転覆しているのが発見されたため、被災者を捜索したところ、水深約5メートルの川底で死亡している被災者が発見された。尚、いつも着用していたライフジャケットは、着用していなかった。	20202	1～9
2013	5	21 ～ 22	被災者は、プール営業終了後の清掃及び更衣室内の忘れ物を確認した後、救助訓練として25mプールを往復1分以内で泳ぐ訓練を5本実施しクーリングダウン後に、他の従業員とプール水面上にシート掛けを行った。終礼を行うため、ロビーに集合した際に被災者がいない事に同僚が気づき、プール場へ探しに行ったところ、プールの中でうつ伏せで水没しているの被災者が発見された。	120109	50～ 99
2013	12	14 ～ 15	ボンベ等の潜水器具を装着した被災者が、水深約4mの海中に潜りアワビ漁を行っていた。被災者に同行し、船舶上で待機していた船舶操縦士が一向に海上に上がってこない被災者を心配し、周囲を捜索したものの被災者の姿を確認できなかった。その後、海上保安庁及び消防署の捜索により、被災者は海中で発見された。	30111	1～9
2013	10	12 ～ 13	漁港防砂堤の災害復旧工事において、堤頭部の鋼製型枠の解体作業中、同僚が型枠を連結するボルトをガス溶断により切断したところ、設置していた堤頭部の端から型枠が外れて滑り落ち、型枠に上がって作業していた同僚と、型枠に移動はしごをかけて乗っていた被災者が海へ転落した。型枠は海中に滑落し、同僚は救命胴衣によって浮上し救助され、被災者は海中で発見されたが既に溺死していた。	30111	1～9
2013	8	16 ～ 17	刈り払い機で河川の除草作業を行っていた被災者は、法面でバランスを崩し、刈り払い機とともに放水路に転落しているところを同僚に発見され、救助後、搬送先の病院で死亡（溺死）した。	30107	10～ 29
2013	12	5 ～ 6	朝刊配達業務中、何等かの理由で河川沿い道路上にバイクを停車させ降りたところ、誤って河川に転落し、約1km下流に流されている被災者が発見された。	80205	10～ 29

2013	1	16 ～ 17	被災者は、事業場所有の船に箱船を積み、海苔養殖場に海苔の消毒作業のために出向いた。当該場所で箱船を降ろし、海苔網を引き上げて箱船の薬槽に浸け、再び養殖場に戻す作業を行っていたところ、何らかの原因により箱船がバランスを崩し、海に転落し溺死した。	70209	1～9
2013	8	15 ～ 16	被災者は、豪雨のため崩れた川の縦断面、横断面の測量を行っていた。川に入り川底の横断面の測量を行っていた際、おぼれ死亡した。	170209	30～ 49
2013	2	10 ～ 11	被災者は池の水位の点検作業中、水深2.8mの位置へ水位計を再設置し水面に浮上したところ、設置位置を示すロープが背負っていたボンベに絡まっていることに気がつき、絡まったロープを取り外すため、再び水中に潜り取り外そうとしたところ、誤ってボンベを落とした。ボンベと被災者が着用していたドライスーツは高圧ホースで接続されていたため、そのまま水中に引込まれ水死したと推測される。	170209	50～ 99
2013	1	17 ～ 18	マグロの養殖いけす（直径約40m、深さ約20m）の網の点検及び死魚の回収等の作業を、被災者を含めた2名が交替で潜水して行っていた（1か所あたりの潜水時間は15分程度）。被災者がいけす内部に潜った後、約45分経過しても水面に浮上しないため、もう1名の作業員が関係者に連絡し捜索したところ、いけすの底に沈んでいる被災者を発見した。	80209	1～9
2013	3	11 ～ 12	海水浴場へ3名でダイビングスポットの下見に出かけた。3名は、ボンベを担いで海に入り泳いでいたところ、被災者とはぐれたため、海上保安庁へ一報を入れ、捜索をおこなったところ、沖合50mのところで、既に死亡していた被災者を発見した。	170209	1～9
2013	6	10 ～ 11	出勤した被災者が就労場所からいなくなったので、他の者が付近を捜したところ、港の堤防と消波ブロックの間に倒れている被災者を発見した。死因は溺死であった。	170209	50～ 99
2013	4	9 ～	堤防に置いていた定置網用の網が海に落ちかけていたため、その状況を確認するため、被災者を含めた5名の労働者が堤防を歩いていたところ、北側から波を受け、被災者を含めた2名が海に投げ出された。被災者以外の労働者	70201	1～9

		10	は救出されたものの、被災者は溺死した。		
2013	4	12 ～ 13	被災者は、養殖魚の入った生けすの係留ロープの補修作業のため、岸壁を歩行中、高波にさらわれ海中へ投げ出され溺死した。	70209	10～ 29
2014	10	7 ～ 8	ボンベ等を用いて潜水し、マグロ養殖用のいけすの点検作業中、海底に沈んでいる被災者が発見された。	70209	10～ 29
2014	10	16 ～ 17	調整池の排水パイプのゴミを取り除く作業中、調整池内の直径20cmの排水パイプに脚の太もも付け根まで吸い込まれ、抜けなくなり、流入してきた雨水に溺れた。尚、災害発生時、台風接近に伴い、強風、大雨、洪水、雷の各注意報が発令されていた。	30109	10～ 29
2014	8	17 ～ 18	大雨により、工事現場が浸水し、被災者は膝下当たりまで水に浸かり、建築資材の回収作業を行っていた際、水流が急激に増し、胸元当たりまで水かさが増加。移動中に深みにはまり、溺れた。	30109	1～9
2014	7	15 ～ 16	汚泥処理施設にて、トラックの誘導及び荷台の洗浄作業中、汚水を抜くための蓋を開けていたところ、開口部から洗浄排水ピットに墜落し、溺死した。	150102	10～ 29
2014	7	8 ～ 9	河川の左岸法面の除草作業中、法面下部の雑草を手作業で除草していたところ、法面から川に転落した。	30199	30～ 49
2014	6	15 ～ 16	護岸工事で使用されていた排水管を車両系建設機械を使用し、つり上げ、河川内から河岸に移動させる作業中、被災者は河川内の岩場に立ち、ワイヤーロープ等を使用し、排水管に玉掛けを行った際、足を滑らせ、岩場から増水した河川に転落した。	30107	1～9
2014	5	15 ～ 16	被災者は、発電機の復水器出口配管の内部の塗装作業を開始しようとしたところ、配管の傾斜（45度）した部分から転落し、配管内部の海水内に落ち、死亡した。	30309	10～ 29

2014	5	8 ～ 9	バースに船を係留するためのロープをバース側から手繰り寄せるため、船からバースへ向け、先端にゴム重りが付いたロープが投げられた際、被災者は、バースの縁付近に投げられ落下したゴム重りを拾おうとしたところ、足がもつれ、海へと落下。溺水により死亡した。	170209	10～ 29
2014	4	7 ～ 8	スクーバ式潜水のウニ採り作業中、水深約22mの海底でうつ伏せの状態得意識不明となっている被災者が発見された。	70201	10～ 29
2014	3	14 ～ 15	水質検査のため、川岸からロープ付きステンレスバケツを川に投げ込み水を採取していたところ、川に転落しおぼれた。	170209	1～9
2014	2	13 ～ 14	被災者は、船長と共に5.2トンの船舶に乗船しニシンの刺し網漁に従事し、投網中、網とともに海中へ転落した。その際、着用していた救命胴衣にアンカーロープが引っ掛かり、一度海中に沈んだが、引き揚げて病院へ搬送したが死亡した。尚、災害発生当時、天候晴れ、波約1m、風約4～5m毎秒、海水温2℃であった。	70201	1～9
2014	1	19 ～ 20	被災者は、船の荷役の立ち会い業務終了後、事業場へ作業終了の連絡を行った。その後、深夜になっても被災者が帰宅せず、連絡も取れなくなった。後日、海上保安部により遺体が発見され、司法解剖の結果は「溺死の疑い」であった。	170209	100 ～ 299
2015	3	1 ～ 2	3月4日19時に港の警備に就き、2時間毎に定時報告を入れていたが、3月5日1時の報告がなく、無線及び携帯電話を呼び出しても応答がなかったため巡回警備員を現地へ向かわせたものの発見できなかった。警察及び海上保安本部へ通報し、潜水士による海中捜索中に被災者の業務用ライトを発見したが被災者は発見できないまま3月6日に捜索終了。5月9日に現場から約4km東の海上で発見されたもの。	170201	100 ～ 299
2015	11	6 ～	当日午前5時半頃、被災者を乗せた19トンの漁船が漁港を出航し、午前6時頃から定置網に船を固定する作業を開始し、その後、船長が被災者が船内外にいないことに気づいたので船内外を捜索したところ、約6時間後、被災	70201	10～



		7	者が海底で発見された（溺死）。事業場は30トン未満の漁船等にて定置網漁業を営むものであり、被災者は同事業場の作業員である。		29
2015	9	12 ～ 13	事業場から2トントラックで荷（自転車）を運ぶため走行中、冠水した道路でトラックが水没した。そのため、被災者は事業場へ連絡し、迎えに来るよう依頼したが、無理と言われたため、トラックから降りて徒歩で歩いていたところ、事業場との電話連絡を最後に連絡が途絶えて13日に警察から死亡の連絡があった。	40301	1～9
2015	10	22 ～ 23	被災者他5名で港のふ頭において、船からカニの荷揚げ作業を終え、現地で解散となった後、被災者は乗って帰るトラックが停車してある方向とは反対側の岸壁の方に歩いて行き、同船と岸壁の間から転落し溺死した。なお、業務上外調査中であったが、平成28年2月5日業務上と決定した。	40301	1～9
2015	9	10 ～ 11	当日の記録的な豪雨により、駐車場下を通っている排水管（直径36cm）がゴミ詰まりして溢水状態にあったため、その後の状況を懸念して朝から職員3名で排水管口のゴミを取り除く作業をしていたが、作業中、職員のうち1名が転倒し、排水管に足を吸い込まれ、水中で溺れる状態となったもの。10時33分にレスキューに出動要請し、救出され、病院に搬送されたが、翌日午前中に死亡したもの。	130201	50～ 99
2015	1	12 ～ 13	被災者は、定置網の箱網交換作業のため、箱網とその外側に設置している固定用ワイヤーロープとをロープにて緊結する作業を海に入って行っていたが、漁船上で金庫網の設置作業を行っていた同僚が海面に浮いている被災者を発見し、すぐに引き揚げ鐘崎漁港に行き、救急車で病院に搬送され心肺蘇生等を行ったが、処置への反応がなかったので、15時21分窒息（溺水）として死亡確認されたもの。	70201	1～9
2015	9	6 ～ 7	豪雨の影響で人員の調整が必要となったことから、通常より早く業務を行うため、自宅近くの拠点で公用車に乗り、事務所に向かっていたところ、近くの河川が増水していた。前方の車両に続き通抜けしようとしたが停車してしまい公用車ごと濁流に流された。当日救助されるもののその後死亡が確認さ	130201	50～ 99

			れた。		
2015	1	0 ～ 1	汚水槽（以下「槽」という。）内に水位計を設置するにあたり、水位計保護管の架台据付作業を行う事前準備として、槽から汚水を抜くための仮設ポンプを槽の上部より搬入することとした。槽内で2名にて仮設ポンプを受取るため、最初に梯子から降りた被災者が槽内のスロープに足を滑らせて水中に落下、槽の底に沈んだ状態で見つかり、搬送先の病院で溺死による死亡が確認された。	30302	10～ 29
2015	4	21 ～ 22	22時10分頃、作業員が養殖池に用具を取りに行ったところ、被災者が養殖池にうつ伏せで倒れているのを発見したもの。なお、被災者のそばには一輪車があった。被災者は養殖池横の資材倉庫に住み込みであり、南側のスロープの縁に砂が残っていたことから、就業時間前に重機に付着した砂をかき落とし、一輪車で運搬し、養殖池内に捨てようとして、スロープから墜落して海水に溺れたものであると推定される。	70209	1～9
2015	6	14 ～ 15	事業場敷地内の水路の周囲の草刈りを被災者が1人で行っていた。被災者の被っていた麦わら帽子が下流に流れて来たことから、被災者を探したところ、下流の水槽内に草刈り機とともに沈んでいる被災者を発見したもの。被災者が墜落・転落した水路の深さは約3m、水面までの深さは97cm、水流1.3m/sであった。被災者は作業中に水路へと墜落・転落したものであると思われる。	10601	100 ～ 299
2015	2	10 ～ 11	平成27年2月18日午前10時ころ、河川水門耐震補強工事において、現場付近を航行する船舶の状況を監視する警戒船業務中に、用を足すためにトイレを設置した台船（水面からの高さ1.4メートル）と船の間を移動していたところ、水面に転落し溺死したもの。なお、ライフジャケットは身に付けていなかった。	170201	10～ 29
2016	12	12 ～	水深約56mの海底に設置された海象観測装置の保守管理のため、小型船に積んだ混合ガスボンベからホースにより吸気を受けた被災者が、午前11時48分に潜水を開始し、午前11時51分頃に水深約56mまで到達した。被災者は午前11時59分頃まで、前日に交換した防蝕板の写真撮影作業を	30302	1～9

		13	行い、浮上を開始したが、水深24m付近まで到達した際、自発呼吸をしなくなり、救出をするも死亡が確認された。		
2016	11	3 ～ 4	被災者は、雨天の中、駅構内水巻踏切の補修工事に伴う上り線右側の車両誘導作業に従事し、午前3時30分に作業が終了後、行方不明になっていたが、約9時間後に誘導作業現場から39メートル離れた側溝（幅155cm、深さ85cm、水深30cm）に浮かんでいるのを発見された。	170201	30～ 49
2016	11	9 ～ 10	国が委託した河川横断測量業務（他社より再委託）において、他の労働者と2名で川の中（水深50センチ）で測深棒を持ち、測量作業を行っていたが、水際から約40m付近から急激に水深が深くなり、作業を終了して岸へ引き返す際、足元が滑って全身が水中に沈み、流された。その後、被災者は消防等の捜索により現場から約250m下流で救助されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。	170209	1～9
2016	10	11 ～ 12	川を下流から上流方向に向かって点検・巡視作業中、川の右岸から左岸へ渡ろうとしたところ、川の流れが急であり、つかえ棒代わりに使用していた測量用の棒が折れ、身体のバランスを崩し、下流方向に流され溺死した。	170209	1～9
2016	10	14 ～ 15	被災者ら3名は、はしけを用いて沖に係留していた船から、バイオマス発電所に使用する木質チップを移送し、はしけを陸に接岸する作業を行っていた。木質チップを積載したはしけを接岸し、係留ロープの設置等の作業を行っていたところ、はしけに係留されていたタグボートの係留ロープが外れ、無人で流れて行ったため、被災者がタグボートに乗るため、海に飛び込み、タグボートに乗ろうとしたが、おぼれた。	50209	50～ 99
2016	8	13 ～ 14	被災者は施設入居者の川遊び行事のため、遠浅の川岸で児童らと昼食中、岸に置いていたビニール製の子供用ボートが何らかの原因により川に流された。咄嗟に河川に入りボートを追い掛けたところ、深みにはまり溺れた。	130201	10～ 29
2016	7	18 ～ 19	川の流量測量のため、川巾30mの左岸から右岸にロープを渡した。被災者は右岸からロープを伝って左岸に渡っていたところ、中央部付近で突然、体が沈み、姿が見えなくなった。約1時間後、作業場所から2km下流で浮い	170209	30～ 49

			ているところを発見され搬送先の病院で死亡が確認された。		
2016	7	16 ～ 17	被災者は、同僚と木材運搬船に木材を積み込む作業を行っていたところ、午後4時頃トイレに行ったと思われるが、5分程経過しても戻ってこなかったため、同僚が探したところ、海面に被災者のヘルメットが浮いているのを発見したため、消防へ通報し現場周辺の海中を捜索したが発見できず、翌日、捜索を再開したところ、海中に沈んでいた被災者を見つけたが、死亡が確認された。	50202	1～9
2016	7	13 ～ 14	被災労働者は午前中より河川堤防の草刈り作業を行っていたが、昼食後、気分が悪いとのことにより用水路付近で休憩していた。その後、姿が見えないことに気付いた同僚が探したところ、用水路内（水深約90cm）に落ちているところを発見された。	30107	1～9
2016	6	15 ～ 16	被災者は、事業場の砂利採取場において役員である専務と2名で細砂の採取業務に従事中、砂を掘削した箇所に溜まった湧水（水深2.65m）に転落し、溺死した。被災者は、湧水が溜まった箇所から離れた位置で、ドラグ・ショベルを用いたダンプトラックへの細砂の積み込み作業を行っていたものの、姿が見えなくなったことから水中を捜索したところ、発見された。	20202	1～9
2016	6	15 ～ 16	被災者は漁業権エリア内での違反採貝者の取締り等を行っていた警備員であるが、海中で溺れている者がいると助けを求められ、漁業権エリア外まで同行して溺れている者を確認し、海に飛び込んだが溺れた。消防隊員が駆け付けて引き上げた際には心肺停止状態であり、搬送先の病院で死亡が確認された。	170201	30～ 49
2016	5	20 ～ 21	鵜飼が終了し、鵜飼中に逃げ出した鵜を探していたところ、上流の川面にいる鵜を発見し鵜を捕獲するための準備作業をしていたところ、鵜舟の船頭が行方不明になった。その二日後、橋の上流の川底に沈んでいる被災者が発見された。	70201	1～9
2016	5	17 ～ 18	被災者は一般廃棄物処理場の管理人であるが、5月17日に事業場と電話で話をしたのを最後に行方不明となり、5月19日に捜索した結果、処理場内の調整池（水深約1.8m）に沈んでいるのが発見された。	170209	10～ 29

2016	5	7 ～ 8	堤防のうち、事業場が管理している延べ50メートルの土手（斜度約35度、犬走から道路までの高さ約2.2メートル）の草刈りを行っていたところ、持ってきた草刈り機ごと川に転落して溺死した。	10801	100 ～ 299
2016	5	16 ～ 17	水路看視業務中、水路に転落し、約3キロメートル下流でうつ伏せの状態死亡していた。	170209	30～ 49
2016	3	14 ～ 15	官公庁へ書類を提出するため自転車を運転中、川の橋上にて強風により書類が飛ばされ、その書類を追いかけるため自転車を堤防に止め、制服等を川縁に置き入水したが溺れ死亡した。	150101	50～ 99
2017	12	6 ～ 7	作業から戻って来ない被災者を探しに行ったところ、釣り堀の池に浮かんでいる被災者を発見した。	140309	1～9
2017	10	8 ～ 9	区画道路舗装工事現場において、雑草の処理のために路肩部分の転落防止柵を乗り越えたところ、バランスを崩して約3.0m下にある水深2.5mの調水池に転落し溺死した。	30106	10～ 29
2017	10	14 ～ 15	ボートシュノーケリングツアー中に、ダイビングインストラクターが水深15～16mの海底に沈んだまま動かなくなっているのが発見された。当該インストラクターは、ツアー中の休憩時間を利用して素潜りの練習をしていた。	140309	1～9
2017	8	8 ～ 9	被災者は港に接岸していたフェリーの船内清掃作業を行っていたが、岸壁から同フェリーの従業員用出入口へ渡る際に通行設備を使用せず飛び移ろうとして海に墜落した。なお、墜落時における岸壁から海面までの高さは2メートル未満であった。	50202	10～ 29
2017	8	16 ～ 17	午後3時55分頃、被災者は、油槽所内の巡回及びオイルタンクのバルブの閉栓作業のため、徒歩で給油所内の事務所を出発した。午後4時10分頃、同僚が油槽所内のNo.4オイルタンク付近の海面に、仰向けで浮かんでいる被災者を発見した。	80401	1～9

2017	8	10 ～ 11	児童養護施設の行事の一環として訪れたキャンプ場内の川で、川の深みにはまった同施設の入所者（高校生）を被災者が対岸側に押し出し同僚が救出後、被災者自身は深みから自力で抜け出せず、ほどなく同僚らに引き上げられたが、死亡が確認された。	130201	10～ 29
2017	5	0 ～ 1	踏切修繕工事の交通誘導を6人の警備員で開始した直後、被災者は用を足しに持ち場を離れた。1時間経過しても被災者が持ち場に戻って来ないため、周辺を捜索していたところ、近くの水路で心肺停止の状態で見つされた。	170201	100 ～ 299
2017	4	10 ～ 11	被災者は、他の作業員とともに単管とクランプを使用してため池上に設置された仮設ステージのクランプを調整していたが、他の作業員が一時的に現場を離れ、再び戻ったところ被災者の姿が見えず、保護帽が浮いていることを不審に思い付近を探したところ、ため池に沈んでいる被災者を見つけた。	30302	1～9
2017	4	14 ～ 15	被災者は、産廃の中間処理場において箱型のダンプ車を高圧洗浄機で洗車する作業を行っていた際、荷台を洗浄するために荷台の天井に備わっている前方の蓋を前方に、後方の蓋を後方に開けて、前方の蓋を荷台に固定せずに荷台を上方に傾け続ける操作を行い、荷台上で洗浄作業を行っていたところ、荷台を大きく傾けたことにより前方の蓋が倒れて被災者に激突し、泥水が入っている洗車ピットに転落した。	150102	1～9
2017	3	10 ～ 11	海上で、同僚とわかめ漁をしていた際、風、波に船があおられ転覆し、海上に投げ出され、心配停止となり10時25分頃、僚船により収容されたが、病院で死亡が確認された。	80209	1～9
2017	3	10 ～ 11	海上で、同僚とわかめ漁を行っていた際、風、波により船があおられ転覆し、海上に投げ出された。同僚は僚船に収容されたが死亡が確認され、被災者は現在も行方不明となっているが、後日死亡認定された。	80209	1～9
2017	2	8 ～ 9	被災者は、ゴルフ場内の落葉の処理を行うため、午前7時頃から車体後部にブロアー（送風機）を接続させたトラクターで一人で作業していたが、当該トラクターをコース脇の法面に放置したまま行方が分からなくなり、周辺を捜索していたところ、翌日午後に当該トラクター近くの池の中から遺体で見つされた。	140301	30～ 49

2017	2	22 ～ 23	工事で使用している宿泊所に宿泊していた被災者が、工事施工中の岸壁に設置されていた中間の杭と陸側の杭の間の海上に浮かんでいるのを発見された。	30111	30～ 49
2017	2	22 ～ 23	スーパーマーケットの惣菜を作るための厨房において、グリーストラップ（油水分離阻集器）の清掃作業を行っていた被災者が、同グリーストラップに上半身を入れ逆さまになった状態で同僚に発見された。	80209	100 ～ 299
2017	1	8 ～ 9	飲料水水槽（水深4.5m一般家庭用）内の堆積物除去を行う作業をするため、被災者が潜水具を付け、水中ポンプで掃除機のように清掃していた際、意識不明になり、心肺停止で病院へ搬送され、4時間後死亡が確認された。通常は3名で作業を行っていたが、災害発生時は2名で作業を行っていた。	150109	10～ 29
2017	1	12 ～ 13	災害発生現場では、流木を解体用車両系建設機械で牽引して撤去するため、作業員2名が川（水深約25～40cm）に入り流木にワイヤーロープを掛ける作業が行われていた。被災者は、岸辺で待機を命じられていた。作業員2名は、ワイヤーロープが掛け終わり岸辺に戻ったところ、被災者がいないので周辺を捜すと、水面にうつぶせで浮かんでいる被災者を発見した。	30199	1～9
2017	1	8 ～ 9	被災者は海中に設置された生簀内で潜水器を用いて潜水作業を行っていたが、当該生簀内の海面に浮かんでいる状態で同僚に発見された。被災者は人工呼吸等の措置を受けたが意識はもどらず、その後救急搬送されるも搬送先の病院にて死亡が確認された。	70209	1～9
2017	1	16 ～ 17	被災者2名は10時30分頃、貯水池の湖面に設置されている水質自動監視装置の保守点検作業を行うため、河川事務所出張所に貯水池に入るためのゲートの鍵を借りに来た。17時頃、事業所から2名と連絡が取れないとの連絡を受けた出張所の職員が貯水池を確認したところ、岸近くにエンジン付きボートと浮いている2名を発見した。ライフジャケットは濡れた状態で岸に置かれていた。	170209	10～ 29
		16	被災者2名は10時30分頃、貯水池の湖面に設置されている水質自動監視装置の保守点検作業を行うため、河川事務所出張所に貯水池に入るためのゲートの鍵を借りに来た。17時頃、事業所から2名と連絡が取れないとの		10～

2017	1	17	連絡を受けた出張所の職員が貯水池を確認したところ、岸近くにエンジン付きボートと浮いている2名を発見した。ライフジャケットは濡れた状態で岸に置かれていた。	170209	29
2017	1	6 ~ 7	ゴルフ練習場の池にある人工島で、利用者が打ち放ったゴルフボールの回収作業を単独で行っていた被災者が、人工島に渡るため自ら操縦して人工島に接岸させていたボートが岸から離れてしまったため池に入り泳いでボートを追いかけていったところ、人工島から約20mの付近で水中に沈み姿が見えなくなった。その後、捜索中の消防隊が水深約2.4mの池底に沈んでいる被災者を発見し、病院に搬送するも死亡が確認された。	140309	30~ 49
2018	11	10 ~ 11	災害発生当日は被災者Aと、Bの2名での作業であり、滝の正確な高さを計測するため、Bは被災者に滝下の岩盤にポールを立ててくるよう指示し、Aは滝側面の遊歩道を通って滝下へ向かった。岩盤に到着するとAから連絡が来るようになっていたが、連絡が来なかった。Bは岩盤に行ったが、Aはいなかったため、消防に連絡し、Aを捜索したところ、岩盤より上流の窪み（深さ約1m）に沈んでいたAを発見した。	170209	1~9
2018	11	10 ~ 11	航空基地への揚油作業（沖合200m付近のタンカーからタンクに納品。）を行うため、ゴムボートでタンカーをブイに係留する準備作業を行っていたところ、高波を受けボートが転覆し、作業員5人と自衛隊員1人が海上に投げ出されたもの。直後から被災者は意識なく、災害派遣要請により自衛隊ヘリコプターで救助、本土に搬送されるも、搬送先で死亡が確認された。	170209	10~ 29
2018	9	20 ~ 21	工場で警備警報があり被災者が現場に向かったが、その後、連絡がつかなくなった。同僚警備員が現場に駆け付けたところ、被災者が運転した車両がエンジンがかかったままで本人行方不明であったため警察に通報。警察で被災者の行方を捜査していたところ、後日、現場から12キロ下流の杉川の三角州において被災者の遺体が発見されたもの	170201	10~ 29
2018	8	20	被災者が石炭の運搬船接岸に伴う係留作業中、ヒーブライン（補助綱）を拾おうとした際によろめいて海に転落し、5分後に陸上に引き揚げられたが意	10804	300 ~



		21	識がなく、その後救急搬送されたが、病院にて死亡確認されたもの。		499
2018	8	8 ～ 9	被災当日は海洋土木工事に使用する潜水士船の錆落とし及び塗装作業を浮きクレーン台船上で行う予定であった。作業を行う予定であった浮きクレーン台船と、当該台船が停泊している岸壁との間の海面に被災者がうつぶせで浮遊しているのを同僚が発見し、救出した後、病院へ搬送され、入院していたが後日死亡が確認されたもの。	30111	50～ 99
2018	8	8 ～ 9	停泊中のクルーザーに乗り移るために使用する手こぎボートを栈橋に備え付けるため、テーブルリフターでボートを湖面に下ろし、被災者は栈橋まで漕いでいったが、テーブルリフターの操作を終えた同僚が栈橋へ行くと、被災者の姿が見当たらなかった。湖面にボート、オール1本、被災者の靴が湖面に浮いていたため、湖を捜索したところ、30分後、ボート真下の深さ3.1mの湖底に沈んでいた被災者を発見し救出したが溺死したもの。	140101	50～ 99
2018	8	16 ～ 17	海浜公園にて、被災者が引率していた労働者の内3名が海で遊んでいたが、3名の内2名が溺れたので、被災者は助けようと海に入り、溺れた労働者の元に向かった。3名の労働者の内溺れていない労働者が、溺れた1名を救出した。しかしながら、被災者は、もう1名を救出し、応援に駆けつけた他の一般客に労働者を引き渡した後海に沈み、溺死したもの。	10102	100 ～ 299
2018	7	12 ～ 13	児童福祉施設（児童デイサービス）が恒例行事として開催したレクリエーション海水浴において、沖に流された浮き輪を泳いで取りに行った児童指導員が溺れたもの。ドクターヘリで救急搬送し救命措置を受けたが同日死亡が確認された。レクリエーション海水浴には、施設代表者と指導員が児童を引率していた。	130201	30～ 49
2018	7	10 ～ 11	河川の堤防の草刈作業中に被災者の姿が見えないため、他の労働者ら及び消防隊が捜索したところ、川の中で心肺停止の状態の被災者が見つかり、病院に搬送されたが、死亡したもの。	60101	1～9
2018	7	8 ～	停泊した定期船のスクリューから異音がするため、潜水作業により状況確認を行い、状況によってはその場で修理するため、ダイバー2名で潜水を行うことにした。被災者が先に入水し、遅れてもう一人入水したが、水中で被災	40102	10～

		9	者の姿が見えないため周辺を探したが見つからず、20分後に約10m離れた場所に浮かんでいるところを発見されたもの。		29
2018	7	14 ～ 15	被災者は、生徒が海で溺れているのを発見し、助けようと海に入ったが、溺れてしまった。被災者は、意識不明の重体で助け出されたが、翌日に搬送先の病院で死亡した。	120109	～ 299
2018	7	22 ～ 23	豪雨で川が増水したため、国道の通行止めを行うことになり、警備員22名を配置した。うち、10名及び行き場を失っていた4名の一般人は、国道上まで増水した濁流にのまれ、警備員2名が流され、残り12名は河川脇の竹林につかまり命は助かった。警備員2名は遺体で発見。	170201	～ 299
2018	7	22 ～ 23	豪雨で川が増水したため、国道の通行止めを行うことになり、警備員22名を配置した。うち、10名及び行き場を失っていた4名の一般人は、国道上まで増水した濁流にのまれ、警備員2名が流され、残り12名は河川脇の竹林につかまり命は助かった。警備員2名は遺体で発見。	170201	～ 299
2018	5	14 ～ 15	市発注の橋梁の架け替え工事において、現場代理人が被災者に休憩の際に使用するジュースを冷やすよう依頼したのを最後に被災者が行方不明となったもの。その後、瀬回しの終端部分にある岩の直下で岩と河床の隙間に体がはさまれるような状態で発見されたもの。	30105	10～ 29
2018	3	16 ～ 17	自衛隊演習場内にある「市街地訓練所」での訓練により生じた破片の清掃や損傷した訓練施設の修繕を自衛隊の担当者の管理のもと行う作業に従事。被災者らは作業車両にて市街地訓練所を出たが、集合場所への被災者らの戻りが遅いので同僚ら探しに行くも荒天のため被災者らの所在確認が出来なかった。捜索にあっていた自衛隊員が、演習場内の調節池で死亡している被災者2名を発見したもの。	150101	30～ 49
2018	3	16 ～ 17	自衛隊演習場内にある「市街地訓練所」での訓練により生じた破片の清掃や損傷した訓練施設の修繕を自衛隊の担当者の管理のもと行う作業に従事。被災者らは作業車両にて市街地訓練所を出たが、集合場所への被災者らの戻りが遅いので同僚ら探しに行くも荒天のため被災者らの所在確認が出来なかつ	150101	30～ 49

			た。捜索にあたっていた自衛隊員が、演習場内の調節池で死亡している被災者2名を発見したものの。		
2018	2	8 ～ 9	ダム水利放流設備点検用ゲート設置工事のため、潜水したところ放流管に流れ込む水に流され死亡した。	30101	1～9
2018	1	10 ～ 11	旅館の敷地横にある川において、被災者の死体を同僚が発見した。	140101	100 ～ 299
2019	12	14 ～ 16	工事中仮設道路の建設作業において、休憩後、周囲の確認作業中に姿が見えなくなった被災者を同僚作業員が探していたところ、水門排水通管の横坑（川が増水したときに別の川に放流する水路）で溺れている被災者を見つけた。	30107	10～ 29
2019	11	0 ～ 2	つり足場において、被災者が常務の補助作業（手元の照射）をしていたところ、被災者のいた箇所から1.2m離れた位置にあった作業床の端（幅1.6m×1.4mの開口部）から川に墜落し、溺死したものの。	30199	10～ 29
2019	10	12 ～ 14	ボイラー管理の業務を担当していた被災者が、豪雨によって周辺を流れる川が氾濫しているなか屋外で何らかの業務に従事していたところ、氾濫水によっておぼれて、別の事業場の労働者1名とともに死亡した。	150101	100 ～ 299
2019	10	12 ～ 14	台風によって川が氾濫し、事業場周辺において水位約2.5mに至る浸水被害を受けた。事業場の設備管理の業務に従事していた被災者は、前日の23時頃から災害対応のため出勤し、何らかの業務に従事していたところ、翌日の正午頃おぼれて死亡しているのを発見された。	130101	100 ～ 299
2019	10	4 ～ 6	被災者は販売店に出勤し、配達担当地区分の新聞配達業務を行った。事業者は、被災者が配達業務を終え帰宅していたと思っていたが、翌日、被災者が出勤しないため警察署に捜索願を出したところ、同日の高架下で死亡している被災者が発見された。	80205	30～ 49
		20	台風の豪雨で、事務所兼寄宿舍の近くを流れていた川の水位が高くなったた		

2019	10	～ 22	め、寄宿舍にいた被災者は、自動車避難しようとしたところ氾濫した川に流され行方不明となった。後日、流された軽自動車付近の田んぼで発見された。	30102	10～ 29
2019	9	～ 2	被災者は、荷下ろし後に車庫に戻るため、市道を運転していたが、鉄道高架下の道路に入った際に被災者の運転する4 tトラックが水没した。災害発生日の正午頃、被災者より所属事業場に4 tトラックが水没し動けなくなった旨の連絡があったが、以降、連絡が取れなくなった。その後、同日夜に被災者が発見され、死亡が確認された。	40301	30～ 49
2019	8	12 ～ 14	被災者は、同僚の作業員と共に機器の点検、清掃作業等に從事していたが、昼休み以降姿が見えなくなったので探していたところ、開口していたマンホールから深さ9.25 mのごみ汚水ピット内で、水中に顔を浸けた状態で発見され、その後死亡が確認された。	150103	30～ 49
2019	3	18 ～ 20	被災者は養鶏業務の従事者である。同僚労働者が事業場に出勤したところ、被災者が事業場内鶏舎の横の、通路の脇にある側溝に顔が浸かった状態で倒れているのを発見した。その後、被災者は溺水を吸引し、窒息により死亡と診断されたもの。	70101	30～ 49
2020	12	～ 10	被災者は海面から約7.5 mの防波堤上部に設置された張出足場・架設通路の解体作業中、何らかの原因で海中に転落したもの。なお、救命胴衣・墜落制止用器具は未着用であった。	30111	10～ 29
2020	10	0 ～ 2	被災者は、単独で、精製途中の澱粉と水が入ったローミルクタンクの天井部分（高さ3.8 m）で、攪拌羽根のモーターの歯車部分の注油作業を行っていたが、異常に気がついた同僚に同タンク内部で心肺停止の状態で見られ、その後、死亡が確認された。発見時、同タンク天井部分の蓋（60 cm × 60 cmの開口部）が開いており、同タンク内の底には注油用のグリスが入ったバケツが沈んでいた。	10109	30～ 49
		14	牽引車を使用してボートを湖から引き揚げる作業を行っていたところ、繊維ベルトが切断したため作業を中断した。その後、ボートが流され始めたため、被災者は、ボートまで泳ぎ、係留場所までボートを移動させ、係留用の		

2020	10	～ 16	杭にロープで固定しようとしたが、これに失敗し、再びモーターボートが沖に流された。被災者は同じことをもう一度繰り返したが係留に失敗し、ボートまで泳いでいた途中、溺れて死亡した。	140201	1～9
2020	9	2 ～ 4	被災日深夜頃、被災者らを乗せた18トンの漁船が漁港を出航し、海中に網を仕掛ける作業を開始した。被災者は漁船内部のとも（後部甲板）左舷で投下する網を広げる作業を治具を用いて行っていたところ、ともの開口面から海中に転落した。捜索の結果発見されたが死亡した。船に救命胴衣は積まれていたが被災者は未着用。災害発生当時の天候は晴れ、波約1m、風約1m毎秒。室内はLED灯を点灯。	70201	1～9
2020	8	14 ～ 16	ダムで水遊びをしていたところ、児童4人と職員1人が溺れている様子が見えたため、被災者を含む職員らは救助に向かった。溺れていた児童と職員の救助はできたが、救助に当たっていた被災者1人が行方不明となり、翌朝水中で発見され、死亡が確認されたもの。	130201	10～ 29
2020	8	～ 14	下水処理施設の設備耐震化工事の準備工事において、角落し（水をせき止めるための厚さ約10センチの板。）を水路内に吊り下ろす作業中、被災者は水中の角落しの設置状況の確認及び玉外しを行うため、角落しの上流側の水深約3メートルに潜水していたところ、水流により角落しを乗り越えて浮き上がり、命綱により同僚に救出されたが、死亡したもの。	30110	1～9
2020	8	14 ～ 16	発電所予備取水口付近に設けられた排砂門に漂着した流木2本、竹2本を撤去するため、増水した河川内で保護帽、ライフジャケット等を着用し、排砂門の昇降用梯子に設置した親綱に胴ベルト型安全帯をかけ、鋸で流木等の切断撤去作業を行っていたところ、曲がっていた竹が反発動揺し、被災者は竹に引きずられて水中に転落。水流で引き上げられず、救助のためやむなく鉋で親綱を切断し、約850m下流で救助されたが死亡した。	30201	10～ 29
2020	7	18 ～ 20	被災者は事業場の西側にある用水路に転落し、翌日、同用水路内において、うつ伏せに浮いている状態で発見されたものである。	80204	1～9

2020	7	14 ～ 16	沖合にある養殖用の生け簀の応急措置を行うため、潜水器を装着して潜水作業を行っていた。10分間経過しても浮上しないため引き揚げたところ、圧力調整器が外れた状態で意識不明の被災者を発見したもの。	70209	1～9
2020	7	2 ～ 4	被災者は、災害発生当日の深夜頃、新聞配達の業務のために自宅を出て配達先に向かったが、その後行方不明となり、8日後の午前頃、配達エリア内にある川がつながる下流域において遺体で発見されたもの。被災者が配達を担当する地域は、深夜から大雨であった。	80205	10～ 29
2020	7	2 ～ 4	フェリーターミナルにおいて、係留ロープの脱着、車両誘導作業を行っていた労働者が、フェリー到着時に係留ロープ作業箇所になかったことから、同僚が搜索したところ、海面にうつぶせの状態で見つかったもの。	170201	100 ～ 299
2020	6	14 ～ 16	出張先事業場敷地内で、被災者は、同僚と車中で待機するよう指示を受けていたところ同僚に海を見に行くと言い残し、海へ向かって行った。その後、被災者の同僚及び上司が帰路に就こうとした際、被災者の姿を確認できず被災者を搜索していたところ、2日後に海中で溺死している被災者が発見されたもの。	11301	1～9
2020	4	12 ～ 14	調整池の底部に設置した排水用のポリエチレン管（直径38cm）に着衣が吸い込まれおぼれた状態の被災者が発見された。被災当時、降雨で調整池の水かさが増したため、被災者はひとりで調整池の水を抜く作業を行っていた。（被災当時、調整池の深さ約1.8m、水位約1.5m）	30199	30～ 49
2020	3	18 ～ 20	被災者は、同僚2名とともに、委託先事業場の敷地内の巡回を行っていたが、敷地内のバスから海中に転落したもの。救出され病院に運ばれたが死亡した。	170201	50～ 99
2020	1	10 ～ 12	養殖魚の給餌作業に従事していた労働者が海上で行方不明となったもの。被災者は朝から湾内の養殖場で給餌を行っていたが、時化のため午前に作業を終了して別の港へ帰港中、操縦していた給餌船のエンジンが何らの原因で停止して航行不能となり、その後海岸に座礁した。被災者は同僚の労働者に携帯電話で連絡を行ったが、お昼頃から船上に姿が無く行方不明となった。	70201	1～9
			朝礼後、水産加工工場で鮮魚の洗浄等に使用する海水を汲むため漁港岸壁に		

2020	1	<p>14 タンク及びエンジンポンプを積んだダンプトラックで移動したまま行方不明      ～ になっていた。作業場所を確認したところポンプの吸込ホースは海中に設置      16 してあり、エンジンポンプのエンジンはかけた状態で燃料が空になり停止し      ていた。捜索の結果、被災者は午後、海中から発見された。</p>	10102	30～ 49
------	---	--	-------	-----------

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to : [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207\\_01.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html)